

- 面向商务日语专业
- 面向高职高专



标准商务日语系列丛书

标准商务

標準ビジネス日本語会話

日语会话

第二册

主编：(日)高见泽 孟 | 陈 岩

00 会社忘年会



含MP3光盘一张

外语教学与研究出版社



标准商务日语系列丛书

标准商务

標準ビジネス日本語会話

日语会话

第二册

主编：(日)高见泽 孟 陈 岩



外语教学与研究出版社
北京

图书在版编目(CIP)数据

标准商务日语会话. 第2册/(日)高见泽孟, 陈岩主编. —北京: 外语教学与研究出版社, 2010.8

(标准商务日语系列丛书)

ISBN 978-7-5600-9904-0

I. ①标… II. ①高… ②陈… III. ①商务—日语—口语—教材 IV. ①H369.9

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2010) 第 155560 号

universal tool · unique value · useful source · unanimous choice



悠游网—外语学习 一网打尽

www.2u4u.com.cn

外研社旗下网站, 打造外语阅读、视听、测试、共享的全方位平台

登录悠游网, 您可以:

- 阅读精品外语读物, 独有资源, 涵盖广泛, 学习必备。
- 观看双语视频、名家课堂、外语系列讲座。
- 多元外语测试, 检测外语水平和专项能力, 获得外语学习方案。
- 外语资源共享, 网友互动, 小组讨论, 专家答疑, 语言学习无疑难。
- 网站推出众多精彩大礼包, 可通过积分换购。

贴心小提示:

刮开封底刮刮卡, 获得网站积分充值验证码, 即可到网站注册、充值。

出版人: 于春迟

责任编辑: 张俏岩

封面设计: 蔡曼

版式设计: 赵欣

插图: 时间涛

出版发行: 外语教学与研究出版社

社址: 北京市西三环北路19号(100089)

网址: <http://www.fltrp.com>

印刷: 北京联华印刷厂

开本: 787×1092 1/16

印张: 23

版次: 2010年8月第1版 2010年8月第1次印刷

书号: ISBN 978-7-5600-9904-0

定价: 49.90元(含MP3光盘一张)

* * *

购书咨询: (010)88819929 电子邮箱: club@fltrp.com

如有印刷、装订质量问题, 请与出版社联系

联系电话: (010)61207896 电子邮箱: zhijian@fltrp.com

制售盗版必究 举报查实奖励

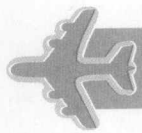
版权保护办公室举报电话: (010)88817519

物料号: 199040001

《标准商务日语会话》第二册

主 编：(日) 高见泽 孟 陈 岩

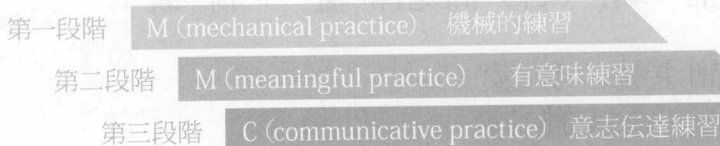
副主编：李 莹
 孙 雪
 郝 岩
 吕 欧



本書の特徴

本書の基本学習理論は、従来から行われてきた反復練習やテキスト文の暗記による「習慣形成理論」(注1)を採らず、次のような新しい学習理論に基づいた「効果的な学習」を実現するよう構成されています。

- 1 言語の習得は、機械的な反復練習の積み重ねによって行われるのではなく、学習者が既習知識によって保持している「仮説」(注2)に基づいて「文」を創り出し、その試行錯誤を通して言語を習得していくと考えます。
- 2 本書による学習は、以下の段階を経て行われ、合理的、かつ効果的に学習項目が習得されます。



第一段階では、テキスト文の反復練習や文型練習など機械的な言語の操作を練習しますが、これによって言語が習得されるとは考えず、発音の矯正訓練や文型の確認が主たる目的で、第三段階での自律的な「試行錯誤」を試みる基礎的な知識や能力を育成する段階です。

第二段階では、相手の発話の意味を考えて、適切な応答をする練習を行います。この段階では、相手の発話の趣旨を理解して、適切な応答文を創り出す訓練で、より実践的な言語使用の段階になります。

第三段階では、既習のあらゆる知識を総動員して、状況にふさわしい文を創り出す練習を行います。練習方法としては、①質問に対して、「事実を述べる」訓練や②与えられた「状況にふさわしい慣用表現や敬意表現を述べる」訓練、③与えられた「前文にふさわしい後続文」を考えて、文を完成させる訓練などが代表的な方法ですが、この段階での練習では、「内容」も「使用文型」も「使用語彙」「丁寧さのレベル」など、すべて学習者が自主的に決定することになっています。つまり、実際のコミュニケーションの場合と同じように、応答のあらゆる要素を学習者自身が選択し、意思疎通を図る訓練になっています。

- 3 この学習方法は、学習者が基礎的な言語項目を学習した上で、それを自力で駆使できるようにするため「状況」だけを示し、自主的にコミュニケーションを行えるよう構成されています。

- 4 テキストの内容は、海外の日系企業従業員が必要とされる表現や語彙を中心に学習し、さらに課末にはその課の内容と関連のある日本の企業文化の解説が掲載され、言語と情報の両面からビジネス日本語の学習が行えるように企画されています。
- 5 一般的な日本語のテキストと異なって、本書では初級段階から専門用語やビジネス慣用表現が導入されていますが、これらは実際の企業内コミュニケーションでよく使われる表現なので、各課の状況に合わせて紹介してあります。

以上が本書の特徴ですが、キーワードは、

- ①「効果的な学習方法」
- ②「実用的な教育内容」

注1 習慣形成理論 (habit-forming theory)

言語は一種の「社会的な習慣」で、言語を身につけるということは、新しい習慣を獲得することなので、そのために必要なのは、同じ行為を繰り返し行うことです。言語の習得も、その言語を繰り返し練習することによって達成されるとする理論です。オーディオリンガル・アプローチ (Audio-lingual Approach) などがその理論を採用していましたが、チョムスキー (Noam Chomsky 1928~) らの理論によって否定され、「仮説検証理論」(hypothesis testing theory) などに代わられています。

注2 仮説 (hypothesis)

学習者は、ある言語に接触し、その言語でのインプットを受けると、その言語に関する独自の「仮説」を作り、それに基づいてその言語を使用し、成功すれば、その「仮説」を使い続け、うまくいかない場合には、その「仮説」を訂正して、「新仮説」を作り、それに基づいて言語を使用します。言語の習得は、機械的な反復練習によって達成されるのではなく、学習者の積極的な「仮説の構築」と「仮説の検証」の過程を経て行われます。

現在の教授法には、この理論に基づいた言語教育を行っているので、学習活動でも学習者が積極的な「試行錯誤」、つまり、学習者自身の「仮説」によって文を創造し、それが誤っていれば、さらに「新仮説」を形成して、発話を再発信する過程を重視しています。



本书的特点

本书并未采用长久以来以反复练习和背诵课文为方法的“习惯形成理论”（注1），而是为了实现“有效的学习”，采用了如下新的学习理论：

- 1 语言的掌握并不是通过机械性的反复练习进行的，而是学习者通过已掌握的知识，根据现有的“假设”（注2）造出“句子”，然后在不断的“错误的尝试”中学习语言的。
- 2 通过本书的学习，经过以下的阶段，就能够合理而有效地习得学习项目。

第一阶段 M (mechanical practice) 机械性练习

第二阶段 M (meaningful practice) 意图性练习

第三阶段 C (communicative practice) 交流性练习

在第一阶段，课文的反复诵读以及句型练习等这些机械性的练习，并不是为了使学习者掌握语言，其主要目的是矫正发音和确认句型，同时也是为了积累知识和能力，以便在第三阶段能够自发地进行“尝试性练习”。

在第二阶段，学习者思考对话的含义，进行问答练习。本阶段要训练学习者理解对方话语的含义并进行适当回答的能力，也是更加具有实战性的语言使用阶段。

在第三阶段，运用所有学过的知识，根据情况练习造出适当的句子。具有代表的练习方法有：① 针对于提问的“阐述事实”练习；② 练习使用“与情况相符的惯用表达方式或敬意表达方式”；③ 根据前句意思，把句子补充完整的练习。此阶段的练习中，“内容”“句型”“词汇”“敬意的程度”等都是由学习者自主决定的。即与实际交流场景相同，回答时所有的要素都由学习者自己选择，达到锻炼沟通想法的目的。

- 3 此种学习方法是建立在学习者学习过基础语言项目的基础之上的。为了使其能够依靠自己的能力进行练习，此处只向学习者提供“场景”信息，使其能够自主地进行交流。

- 4 本教材的内容，主要是以海外日系企业的员工所必需的表达方式和词汇为中心，另外，在每课课后都加入了与该课内容有关的日本企业文化的解说，为了使学习者能够从语言和文化两方面学习商务日语。
- 5 与一般的教材不同，本书从初级阶段开始就引入了专业词汇和商务惯用表达方式，这些都是在实际的企业内部交流时经常使用的表达方式，配合每课的情况加以介绍。

以上是本书的特点，总结起来有两点：

- ① “有效果的学习方法”
 - ② “实用性的教学内容”
-

注1 习惯形成理论 (habit-forming theory)

语言是一种“社会性的习惯”，掌握一种语言就是获得一种新的习惯。所以，必须不断重复相同的行为。语言的掌握也是通过反复练习而完成的。听说法 (Audio-lingual Approach) 等方法就是采用了这一理论，但被乔姆斯基 (Noam Chomsky 1928 年~) 的理论所否定，取而代之的是“假设验证理论” (hypothesis testing theory)。

注2 假设 (hypothesis)

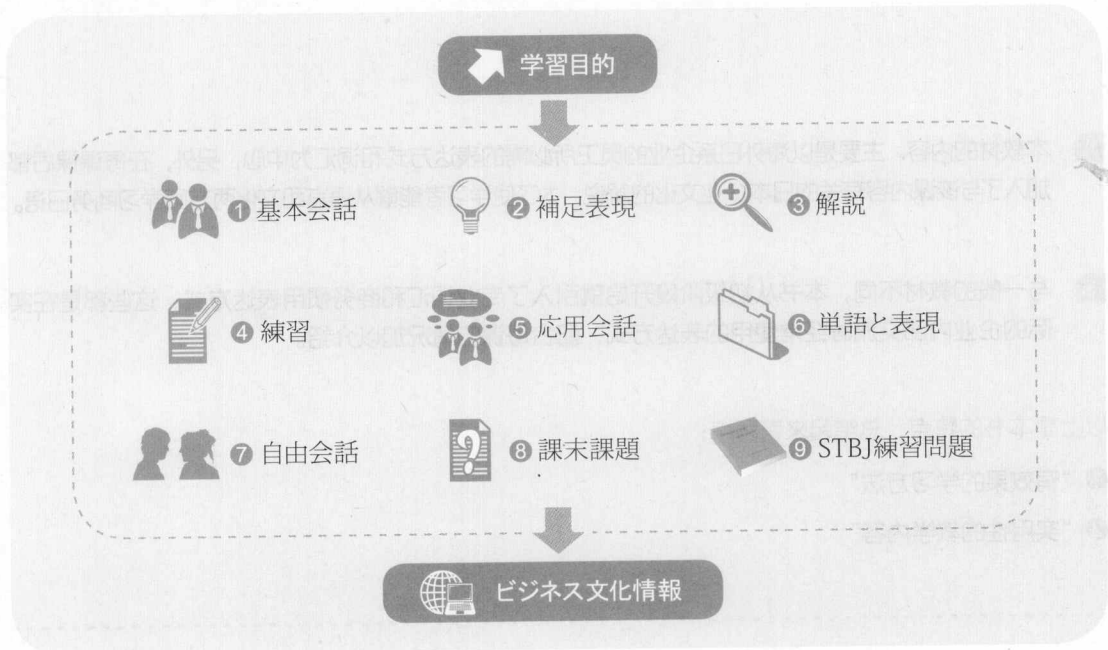
学习者接触某种语言，接受该语言的输入时，每个人都会产生对于该语言相关的“假设”，并基于此种假设来使用语言。成功的话，继续使用该“假设”；失败的话，则进行修改，再作出“新假设”，然后再次使用。语言的掌握，不是通过机械性的反复练习形成的，而是通过学习者积极地“构筑假设”和“验证假设”而进行的。

现在的教授法都是基于此理论进行的。所以，即使在学习活动中，也很重视学习者自身积极的“尝试”，即重视学习者根据自身的“假设”造句，如果是错的，再形成“新假设”，然后再重新造句。



本書の教え方

本書の各課は、標準的には次のような構成になっています。



それぞれの教え方は、以下のようです。

0 学習目的

「学習目的」には、この課で学ぶべき文法事項や言語機能の説明が記載されています。課の学習を始める前に必ず学習者に読むように指導してください。教師はこの「学習目的」を読み上げたり、解説したりする必要はありません。

1 基本会話

「基本会話」は、文型や語彙、さらにその課の状況にふさわしい「慣用表現」などを導入するための役割を負っています。この「対話」は次のように指導します。

1 まず、学習者（たち）に付属のMP3を使って「基本会話」を二度聞かせてください。学習者（たち）はテキストの当該ページを読みながら、その「基本会話」内容を聴き、「基本会話」の音声と意味を結びつけて理解するようにします。

「基本会話」が複数ある場合には、個別にこの方法で学習します。

2 「基本会話」を教師が語り口調で読み上げ、学習者にそれを真似て発音させます。その際、音声の間違えやアクセントの間違えは、訂正して発音をやり直させますが、初級の段階では、母語話者並みの正確さを要求せずに、先ずは母語話者が聞いて意味がわかる程度の正確さを到達目標とします。

学習者が複数の場合には、各発話ごとに次の手順で練習を行います。

1) 合唱練習 教師がモデル発音を示し、学習者たちにいっせいに復唱させます。各発話

ごとに3回程度練習します。

- 2) 個別練習 教師がモデル発音を示してから、学習者の一人を手で指定し、復唱させます。その際に名前を呼んで指名するのは、モデル発音の効果がそがれるので、望ましくありません。また、人差し指で指差すのも、学習者の文化によっては不快感を与えるので、避けるべきです。望ましいのは、手の平を上にして、いずれかの学習者に向けて発話者を指名する方法です。

発音の訂正は、この個人指導の際に行いますが、問題のある語だけの練習をせずに、文として発音させて、練習させましょう。

発音に問題があれば、訂正し、モデル発音を示して、言い直させますが、問題がない場合には、次の学習者に移って練習しますが、いずれの場合にも、教師がモデル発音を示してから学習者に模倣発音をさせます。

- 3 「個別練習」に続いて、「役割別練習」を行います。この練習は、「基本会話」の話者を学習者に割り振って「基本会話」通りの擬似コミュニケーションを行います。本書の「基本会話」では、必ず一方の話し手が中国人になっていて、その部分の発話がより重要な学習事項ですが、この練習では、他の役割の部分も担当します。

最初に「役割別練習」を行う場合には、教師も参加することが勧められますが、その際には教師は第一話者（＝「基本会話」で最初に話す役割）を担当するようにしてください。教師から発話が始めると、「基本会話」全体の話の速度や声の大きさが教師のペースで決まるからです。

この「役割別練習」では、テキストを読むのではなく、それまでの練習を通して身についた新しい話し方を充分に発揮して「話し口調」で話すよう指導してください。

2 補足表現

「補足表現」では、「基本会話」の内容に関連した語彙や表現を補充します。ここで導入される語彙・表現は、「練習」や「応用会話」、「課末課題」で使われますから、よく学習させて、使用できるように訓練してください。

「補足表現」の指導は、語彙や表現を教師がモデル発音を示し、それらを反復練習する方式で行います。重要語句については、「4 練習」の最後に紹介する「自由応答練習」の方法を使って学習者に使用の体験をさせることも勧められます。

3 解説

「解説」では、この課で導入される文法や用法、さらに日本のビジネス文化にかかわる表現などを解説してあります。基本的には、学習者が自習して、解説内容を理解すればいいので、教師が積極的に説明をする必要はありませんが、学習者から質問があった場合には、本書の解説と同じ立場で説明してください。まったく異なる解釈で説明すると、学習者を混乱させて、学習効果を低下させてしまいます。

4 練習

本書では、前述した「機械的練習」は「基本会話」や「補足語彙」で行い、この「練習」の部では、「有意味練習」や「意思伝達練習」が中心になります。

「練習」も一種の問題解決のための課題であると考え、多くの場合、学習者自身の「仮説」に基づく「自由な応答」によって言語使用の「試行錯誤」を実施させるよう構成されています。

「練習」において教師は原則として、問題文を読んだり、応答の仕方を説明したりせずに、ただある練習問題のある部分を担当する学習者を指名するだけで、その応答が満足できるものであれば、次の応答者を指名し、次々に応答させます。

応答内容が不適切な場合には、当然もう一度答えさせます（「新仮説」による応答）が、それでも、改善されない場合は、他の学習者に応答させます。

不適切な応答の原因が文法や用法の規則の誤解に基づいている場合には、その「練習」の終了後、関連した規則の解説を行います。その場合も、混乱を避けるためにテキストの「解説」と矛盾しない説明をしてください。

自由応答練習

本書に記載されている「練習」以外に、学習者の習得状況によって行う「自由応答練習」があります。これは実践的なコミュニケーション能力を育成するのに効果的な練習方法です。

「自由応答練習」は、次の方法で行います。

この練習は、基本的には教師が質問し、学習者が答える形式で行われます。この質疑応答は、単なる「会話」ではなく、教師は特定の目的を持って質問し、学習者の答えを引き出し、その「やり取り」の過程が言語使用の体験になり、その体験がコミュニケーション能力の向上に役立つと考えています。

1 教師が特定の意図を持って学習者に質問します。

この場合、考慮すべきは、応答の内容は学習者が知っていて、教師は知らない「情報」でなければならないということで、このような情報の差を「インフォメーション・ギャップ (information gap)」といいます。

この質問の意図は、「練習の目的となっている表現」、つまり、学習者に「習得させたい表現」を学習者に応答の中で使わせて、その「使用体験」を通して習得させることにあります。

2 教師の質問は、段階を経て用意に答えられるよう工夫してあります。

この「自由応答練習」の質問には、次の3種類があります。

1) 「はい—いいえ」質問

「はい」あるいは「いいえ」で答えられる質問

2) 「事実関係」質問

学習者だけが知っている「事実」についての質問

3) 「理由確認」質問

理由を尋ねる質問

1) 「はい—いいえ」質問は、質問内容が理解できれば、応答は簡単になりますが、質問文に「目標表現」の使用例を示す役割も果たしているので、次の質問に答える際の表現使用のヒントになる面もあります。

2) 「事実関係」質問は、事実について学習者が自由に応答するのですが、その応答文の

中で「目標表現」を使わせるのが目的になっているので、質問に工夫が必要です。

- 3) 「理由確認」質問は、「事実」に対する応答内容についてその理由を尋ねるのですが、その理由の説明の中で「目標表現」を使わせるのが目的となっています。「理由」の説明は、言語使用の中でもっとも複雑な過程を経て行われるので、「自らの発想を目標言語で表現する訓練」のも役立つ訓練になります。

自由応答練習の実例

「自由応答練習」は、初級レベルから可能な練習方法ですが、ここでは「～すれば、～するほど」を「目標表現」とします。

① 「はいーいいえ」質問
Q: 日本語は、勉強すればするほど、易くなるでしょう。
A: いいえ、く勉強すればするほど難しくなります。

② 「事実関係」質問
Q: 勉強すればするほど、日本語の何が難しくなりますか。
A: 敬語は、勉強すればするほど、難しくなりますよ。

③ 「理由確認」質問
Q: なぜ、敬語が難しくなりますか。
A: 勉強すればするほど、新しい敬語が出てきますから、難しくなりますよ。

5 応用会話



「応用会話」は、「基本会話」の応用として類似した状況での会話を提示して、その使用域を拡大を理解させます。この「応用会話」は、①聴解用教材であり、②発話練習用補助教材でもあります。

①「聴解用」としては、「応用会話」を録音した録音を聞かせ、その内容を質問したり、要約させたりする方法で、学習者の聴解訓練を行います。この「応用会話」には、「基本会話」や「補足表現」で導入されていない語彙や表現が含まれています。「聴解練習」の場合は、それらの新語彙などを詳しく学習させずに、録音を聞かせると学習者の「類推能力」の育成にも役立ちます。(外国語でのコミュニケーションでは、往々にして道の語彙や表現に出会い、その部分を類推によって補わなければならないので、この類推力の強化は必要な訓練になります。)

②「発話練習用」での指導法は、「基本会話」練習と同様の過程で行われますので、その説明は省略します。

6 単語と表現



ここではこの課で導入された「単語」と「表現」をすべて記載して、学習者の学習の便宜を図っています。

7 自由会話



「自由会話」では、この課で導入された語彙や表現を中心に自然な会話では、どのように使われるかを示しています。従って、新しく導入された語彙や表現が含まれている場合もあります。「自由会話」は、①MP3の会話を聴かせてその内容を要約させたり、②対話参加者の一方の

立場を説明させたり、課題聴解（タスク・リスニング）用教材として使用したりしますが、能力的に余力のある学習者の場合には、発話練習用教材として使うこともできます。

8 課末課題



「課末課題」は、その課の学習項目が習得されているかどうかを確認するためのテストです。中国語で与えられている指示に従って学習者が解答する方式ですから、教師は回答者を指名します。正答率が80%以下であった場合には、関連学習事項を復習させた上で、もう一度「課末課題」をやらせてください。

9 STBJ 練習問題



「標準ビジネス日本語試験（Standard Test for Business Japanese, STBJ）」は、中国商務部傘下の中国国際貿易学会国際商務日本語研究委員会と日本「応用日本語教育協会」との共催で、実施している試験です。この試験は、日系企業に就職を希望する人々を対象として、日本企業の従業員として必要な「ビジネス日本語能力」を測定するための試験です。

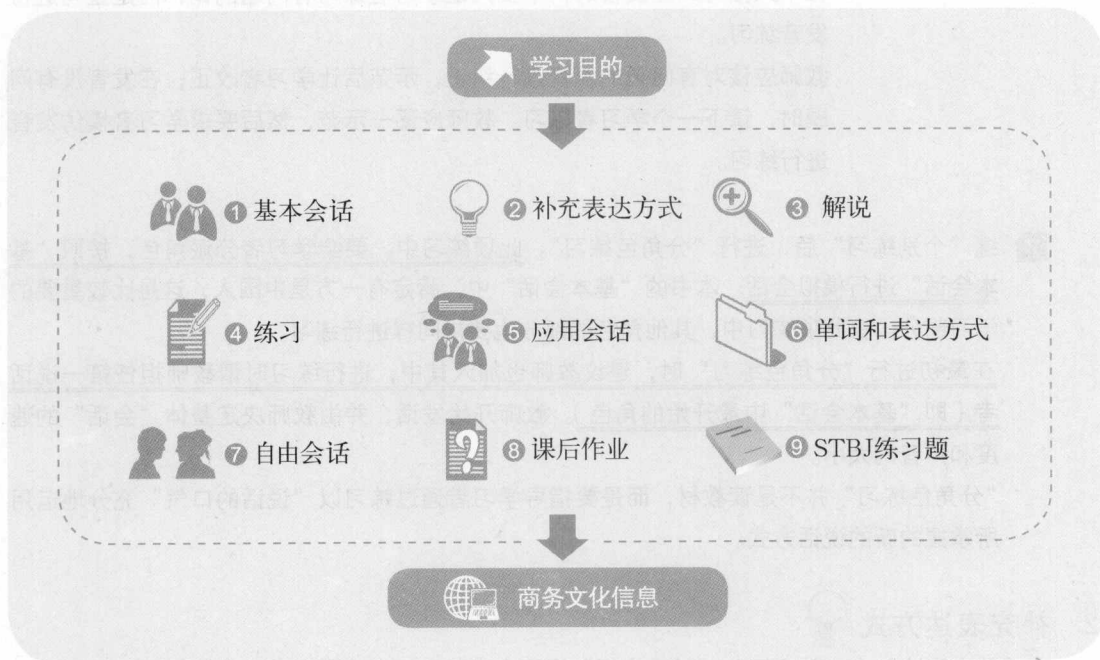
本書では、第二冊の第1課からこのSTBJと同様な形式の問題を提供しています。この練習問題は、各課の学習内容の定着度を測定するための「8 課末課題」とは異なって、各課の学習内容とは関係なく、一般的なビジネス日本語の能力を測定する問題です。したがって、解答するために言語知識ばかりでなく、ビジネス知識が必要な問題もありますが、挑戦して自分の「ビジネス日本語能力」を認識して、STBJ受験の準備をしてください。

以上が本書の標準的な教え方です。学習者の能力によってこの教え方を調整して指導してください。学習者の習得を促進することが最も大切なことから、学習者にとって学びやすい指導法を工夫してください。



本书的教授方法

本书各课由以下部分构成。



每部分的教授方法如下。

0 学习目的

在“学习目的”这部分中，主要记述了在该课中应该学习的语法项目和语言功能。在每课开始学习之前请教师务必指导学习者阅读。教师不需要朗读或讲解“学习目的”这一部分。

1 基本会话

在“基本会话”部分中导入了句型、词汇以及符合该课情景的“惯用表达方式”。对“基本会话”部分可进行如下指导。

1 首先，让学习者利用教材所附的 MP3，听两遍“基本会话”。学习者一边读教材中该页的内容，一边听“基本会话”，争取把“基本会话”的声音和意思结合在一起并理解其含义。有多个“会话”时，分别采取此种方法学习。

2 教师以讲述的语气来朗读“基本会话”，让学习者模仿发音。模仿时，对于学习者的语音错误或音调的错误给予纠正，并要求其重新发音，但是在初级阶段，并不要求学习者达到“母语”的水平，只要达到日本人能够听懂的程度即可。

有多位学习者的情况下，每组会话按照以下顺序进行练习。

- 1) 齐读练习 教师示范读音, 要求学习者一起复读。每组会话练习三次左右。
- 2) 个别练习 教师示范读音后, 指定一名学习者进行复读。为了不影响示范发音的效果, 不建议指名让学生复读, 而用手指人也会给学习者不愉快的感觉, 也应该避免。最好的方法是, 手心向上指向学习者。
- 在个人指导纠正发音时, 不要只让学习者练习有问题的词, 而是整句进行发音练习。
- 教师应该对有问题的发音进行纠正, 示范后让学习者改正; 在发音没有问题时, 请下一个学习者练习。教师应逐一示范, 然后要求学习者模仿发音进行练习。

3 继“个别练习”后, 进行“分角色练习”。此项练习中, 要给学习者分派角色, 按照“基本会话”进行模拟会话。本书的“基本会话”中, 肯定有一方是中国人, 这是比较重要的学习部分。在此项练习中, 其他角色的部分也要求同样进行练习。

在最初进行“分角色练习”时, 建议教师也加入其中, 进行练习时请教师担任第一说话者(即“基本会话”中最开始的角色)。教师开始发话, 并由教师决定整体“会话”的速度和声音的大小。

“分角色练习”并不是读教材, 而是要指导学习者通过练习以“说话的口气”充分地运用所掌握的新的说话方式。

2 补充表达方式

在“补充表达”中, 补充了与“基本会话”内容有关的词汇和表达方式。在这里引入的词汇和表达方式在“练习”“应用会话”和“课后作业”中出现, 要求学习者好好学习、充分练习, 达到能够使用的程度。

指导“补充表达”部分时, 教师应以示范发音、反复练习的方式进行。重要的语句最好在“4练习”部分的“自由问答练习”中让学习者体验实际的应用。

3 解说

“解说”部分包含了该课中出现的语法、用法以及与日本的商务文化相关的表达方式。基本上学习者自己学习, 只要能够理解“解说”部分的内容即可, 不需教师进行说明。学习者有问题时, 请教师给予与本书相同的解释。如果作出完全不同的解释, 会使学习者产生混淆, 降低学习效果。

4 练习

本书中的“机械性练习”在“基本会话”和“补充词汇”之后进行, 在这部分“练习”中, 以“意图性练习”和“交流性练习”为重点。

由于“练习”也是一种解决问题的方法, 所以在多数情况下, 基于学习者自身的“假设”进行“自由问答”, 进而在语言使用中实行“错误的尝试”, 也是“练习”的一个组成部分。

在“练习”部分中, 教师要遵守的原则是: 不要读问题, 不要说明问答的方式, 只需指定学习者担任某练习题的某部分, 回答满意后即可指定下一学习者继续回答问题。

回答内容不合适的情况下，要求学习者再回答一次（根据“新假设”的回答），但是在没有改善的情况下，则可以请其他学习者来回答。

回答不合适的原因是由于误解语法、用法的规则时，在此项“练习”结束后，进行相关规则的解说。为了避免混乱，请教师遵照教材中的“解说”进行说明。

自由问答练习

除了本书中的“练习”以外，还有可以根据学习者的学习状况进行的“自由问答练习”。这是一种培养实际交流能力的有效练习方法。

“自由问答练习”按照以下方法进行。

此部分练习基本上按照教师提问、学习者回答的形式进行。这种回答问题的形式，不是单纯的“会话”，而是教师以特定的目的进行提问，引导学习者回答，让学习者在这种“交谈”的过程中体验语言的使用，可以起到提高语言交际能力的作用。

1 教师带有特定意图向学习者提问。

在这一阶段的练习中，需要注意的是，问答的内容是学习者所知道的，而且必须是教师所不知道的，这种信息的差异我们叫做“信息差距（information gap）”。

此项提问的意图在于“成为练习目标的表达方式”，即在问答练习中，让学习者使用“希望学习者学到的表达方式”，通过这种“使用的体验”达到学习的目的。

2 在不同的阶段，教师要在提问上下功夫，保证学习者能够回答出来。

“自由问答练习”的提问有以下3种。

1) “是与不是”的提问

能够用“是”或“不是”来回答的提问

2) “与事实有关”的提问

对于只有学习者知道的“事实”的提问

3) “确认理由”的提问

询问理由的提问

1) 在“是与不是”的提问中，只要能够理解提问内容，就能够简单地回答，但是由于提问句起到了“目标表达方式”例句的作用，所以在回答接下来的问题时需要给出所使用的表达方式的提示。

2) 在“与事实有关”的提问中，学习者根据事实情况自由地回答问题，但是此项练习的目的是让学习者在回答时使用“目标表达方式”，所以需要在提问的方式上多下功夫。

3) “确认理由”的提问是针对“事实”的回答内容询问其理由，让学习者在说明理由的同时达到练习使用“目标表达方式”的目的。“理由”的说明，在语言使用过程中也是要经过最为复杂的过程来进行的，因此也能够起到“使用语言表达自己想法的训练”的作用。

自由问答练习的实例

“自由问答练习”是在初级阶段就可以使用的练习方法，在这里我们将「～すれば、～するほど」作为“目标表达方式”。

①

“是与不是”的提问

Q: 日本語は、勉強すればするほど、易くなるでしょう。
A: いいえ、く勉強すればするほど難くなります。

②

“与事实有关”的提问

Q: 勉強すればするほど、日本語の何が難しくなりますか。
A: 敬語は、勉強すればするほど、難しくなりますよ。

③

“确认理由”的提问

Q: なぜ、敬語が難しくなりますか。
A: 勉強すればするほど、新しい敬語が出てきますから、難しくなりますよ。

5 应用会话



“应用会话”作为“基本会话”的应用，包含了与其相类似的情况，要了解到其使用领域的广泛性。本书的“应用会话”既可以是①听力资料，也是②会话练习用的辅助资料。

① 作为“听力资料”，让学习者听“应用会话”配套的录音，并就其内容进行提问，要求学习者对内容进行归纳，以此来进行听力训练。此部分中有在“基本会话”“补充表达方式”中没有收录的词汇和表达方式。在做听力练习的时候不要将这些新单词教给学习者，听录音可以培养学习者的“类推能力”。（外语的交流往往都是与词汇和表达方式有关，此部分是强化这种类推能力的必要的训练。）

② 会话练习用的辅助资料的指导方法与前面所讲的“基本会话”部分的程序相同，在此省略。

6 单词和表达方式



此部分收录了该课中出现的所有的“单词”和“表达方式”，以方便学习者的学习。

7 自由会话



“自由会话”中向学习者展示了该课所收录的主要词语、表达方式如何在自然的会话中使用。因此，也会包含一些新词汇和表达方式。学习“自由会话”时，可以要求学习者①听 MP3 中的会话归纳内容梗概，②以对话参加者的身份进行说明，作为听力作业使用。对于有余力的学习者，也可以作为对话练习的资料使用。

8 课后作业



“课后作业”是为了检验学习者是否完成了该课的学习项目而设置的。教师指定回答者，学习者可以根据汉语的提示给出答案。当回答的正确率低于 80% 时，可以要求学习者复习相关部分，然后再重新做一次“课后作业”。